



機械にかこまれる未来

四年 石井 あい理

私が大人になったから、今よりも、と、役に
立つ機械が出てくると思っています。

たとえば、店の店員さんは、いつも、レジ
ぎや、たり、品物をならべたり、大へんです。
だから、店員さんのおかげに、ロボットを使
うと思えます。名付けて、店員さんロボット
。このロボットは、レジや品物ならべなど、
いろいろや、てくれて、店員さんは、とても
楽になります。

家の中には、私の家事を手伝、てくれるロ
ボットや機械がい、はいあ、て裏にな、てい
ます。

学校には、パソコンが、一人一台ずつ、あ
りあてられそれで勉強します。かいだんのか
おりに、エシバーク、き、う食室には、ロボ
ットが、学校にも、ロボットがい、はいいる
と思っています。

道路では、そういさや、ているロボットや

買い出しに行。ているロボットやゆびんを
配たっているロボットがいます。

中には、けいさつのがちりに、小型のロボ
ットがとんでいて、はんだい者や、車のステ
ードいはんを見つけています。

でも、考えてみると、私の周りは、機械で
あふれかえっています。家の中は、まるでエ
場みだいになっています。私は、何もやっ
ていないのに、どんどん物ができ上がってき
ます。外にも機械が、家の中にも機械があ

店にも機械が、学校にも機械がいっぱいで、
地球が機械の国と、いう名前にしても、お
かしくなく、むしろしまさかもしれません。私
の、場所はあります。どこにあればいいの
のでしようか。

ロボットや機械は、とても役にたちま
す。だから、て人間は、機械に、たよって
ばかりでいいのでしようか。私は、今のまま
でいいと思います。ただ、発てんしないます
まで、いいのでしようか。そこを人間が、うま

